

平成 30 年 1 月 吉日

会員薬局 各位

一般社団法人朝霞地区薬剤師会 会長 畑中典子
一般社団法人朝霞地区医師会 会長 村山正昭
朝霞市・志木市・新座市・和光市

多剤処方（ポリファーマシー）対策事業ご協力のお願い

拝啓

厳寒の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当地区では今年度、一般社団法人朝霞地区薬剤師会、一般社団法人朝霞地区医師会、朝霞地区四市の協力のもと、「多剤処方（ポリファーマシー）改善への試み ～医師と薬剤師の連携～」を目的とし、事業を進めてまいりました。全体の流れにつきましては、別紙 1 をご参照下さい。

今後、具体的にご協力を賜りたい医療機関・薬局には、詳細な情報を添えたうえで改めてご連絡を予定しております。何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

【参 考】

平成 29 年 8 月 23 日、高齢者医薬品適正使用検討会は、高齢者の薬物療法の安全性を確保するための中間とりまとめとして次のような課題があげられた。

1. 高齢者の多剤併用は、75 歳以上でより高い傾向がある。
2. 多剤服用の患者は、複数の疾患を有しているために複数の医療機関の受診傾向がある。
3. 特に 6 剤以上で、薬剤関連の有害事象の頻度が高くなる傾向がある。

しかしながら、これらの課題解決に向けての有効なエビデンスはなく、今後は高齢者の安全な薬物治療に向けての情報収集を進め、それに基づいた「高齢者の内服薬の多剤併用に関する適正使用ガイドライン」の作成の必要性が示された。

また、情報収集のひとつの方法として、レセプト情報などのデータベースを用いた調査が提案されており、これらはまさに、保険者、医師、薬剤師共通の課題と考えられている。

ポリファーマシー事業の流れ

